AsiaNet 99510 （0091）

DB HiTekが高付加価値専用センサー事業を拡大

【ソウル（韓国）2023年1月31日PR Newswire＝共同通信JBN】

＊韓国の専業ファウンドリー、DB HiTekは、グローバルシャッターとSPADの年内量産開始を目指し、産業用マシンビジョン、自律走行車、ARなど高成長分野への参入を急ぐ

DB HiTekは、自動車やロボットなどさまざまな産業で注目されている、グローバルシャッターに特化したファウンドリープロセス技術と単一光子アバランシェダイオード（SPAD）で高付加価値専用イメージセンサー事業の拡大を開始する。

同社は、その確かなプロセス技術をベースに、産業用マシンビジョン、自律走行車、AR（拡張現実）など新たな高成長分野に進出、収益性を向上させようとしている。

グローバルシャッターは動きの速い対象物を歪みなく捉えるセンサーで、近年「スマート工場の目」として注目されているマシンビジョン（コンピュータが静止画や動画を検査・評価・識別する技術）に積極的に採用されており、その適用範囲もロボット、ドローン、自動車へと急速に広がっている。

DB HiTekのグローバルシャッターの特徴は、遮光技術と導光技術を応用して光信号の歪みを防ぐ、GSE（グローバルシャッター効率）の99.997%（ノイズ発生率1万分の1以下）という先進技術を採用していることである。最小2.8マイクロメーターの画素サイズを実現できる。

さらに、SPADは光子（光の粒子）レベルの微弱な光信号を検出する超高感度3Dイメージセンサーで、高精度かつ長距離測定が可能という優位性から、自律走行車の「光による検知・測距（LiDAR）」にも搭載されているコア部品である。最近では、AR機能をサポートするため高級スマートフォンへの採用が急速に進んでおり、その役割は今後、ロボットやドローンなど新世代の応用分野にも広がっていくだろう。

ToF（飛行時間）センサーとも呼ばれるLiDARは、レーザー（光）を発射し、レーザーが対象物に当たって戻ってくるまでの時間を計測することで、対象物間の距離や形状を把握できる高精度部品である。

一方、市場調査会社マーケッツアンドマーケッツ（Markets and Markets）によると、LiDAR市場は年平均22％の高成長が続き、2021年の13億米ドルから2026年には34億米ドルになると予測されている。

DB HiTekのSPADプロセスは、波長940nmを基準にFSI（前面照射）で3.2%、BSI（背面照射）で7%の確率での光子検出機能を保証してきた。さらに、将来的にはBDTI（背面深溝絶縁、画素間に絶縁部を形成することで光の損失を最小限に抑え、光学性能の向上を実現する）プロセスにより、光子検出確率を15％まで高め、業界随一の競争力を持つようになる予定である。

DB HiTekのCheonman Shimマーケティング担当副社長は「当社は、グローバルシャッターとSPADプロセスをベースに、世界中の業界大手企業と共同で製品開発に注力し、年内の量産開始を目指している。最適かつ洗練されたプロセスとプロセスデザインキット（PDK）を提供し、顧客が適切なタイミングで市場に参入できるようサポート力を強化するつもりだ」と語った。

▽DB HiTekについて

韓国に本社を置くDB HiTek Co., Ltd.は、幅広いサポートサービスと、アナログ/パワー（BCDMOS）、CMOSイメージセンサー（CIS）、ミックスシグナル、高電圧CMOS、RF HRS/SOI CMOS、スーパージャンクションMOSFET技術など、競争力のあるプロセス技術の強力なポートフォリオを持つ専業ファウンドリーの世界的リーダーである。詳細については、[www.dbhitek.com](http://www.dbhitek.com) を参照。

（<https://dbhitek.com/default.asp> ）

ソース：DB HiTek